

【研修報告】

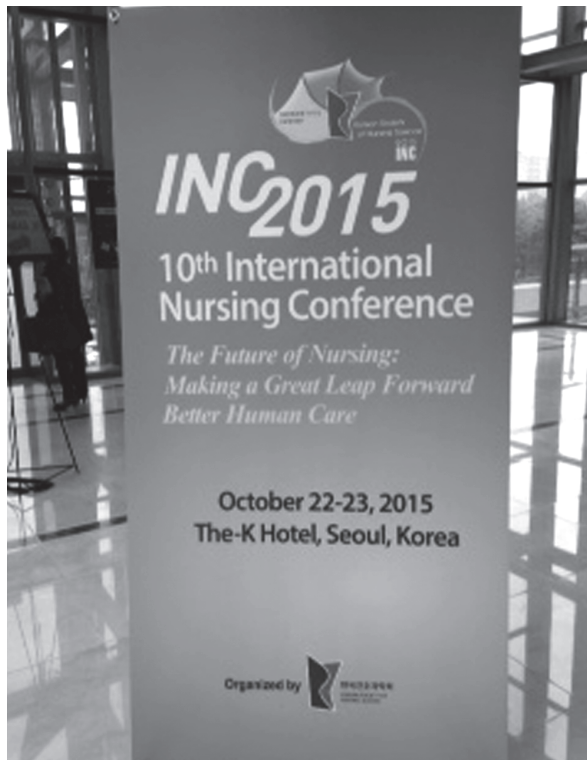
10th International Nursing Conference (ICN2015) に参加して

岡 田 淳 子*

はじめに

韓国では看護学の発展のために国際学会として International Nursing Conference (ICN) を2001年から開催し、今回10回目を迎えた。

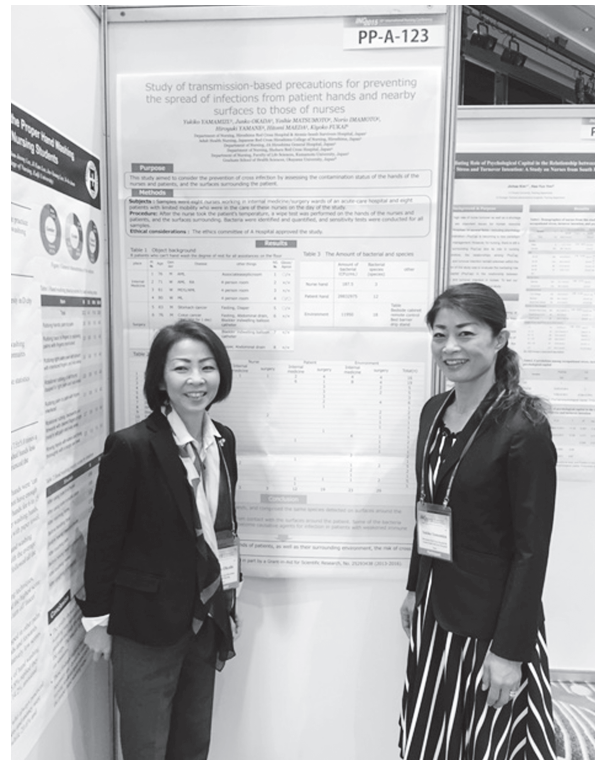
10回目のメインテーマは“The Future of Nursing: Making a Great Leap forward Better Human Care”であった。会場はソウル郊外に位置する The-K Hotel で2015年10月22～23日に開催され、日本と同様に美しい紅葉の時期であった。



参加受付（会場）

発表内容

本学会では、「Study of transmission-based precautions for preventing the spread of infections from patient hands and nearby surfaces to those of nurses」をポスター発表した。



ポスター発表会場

本研究は患者の手指および環境表面と患者に接触した看護師の手指の細菌汚染を調査し、交差感染の予防を検討することを目的とした。

対象は500床以上の急性期病院で内科・外科病棟に勤務する看護師8名と、対象看護師が調査日に担当した活動制限のある患者8名とした。看護師が患者に検温を実施した後に、看護師の手指と、患者の手指および周囲の環境表面の拭き取り検査を行い、培養・同定・感受性検査を実施した。

検出された細菌量は患者の手指が最も多く、患者の手指と環境からは同じ細菌が検出された。看護師の手指からは患者の環境と同じ細菌が検出され、看護師は患者の周囲環境への接触によって手指に伝播されていることがわかった。検出菌のほとんどがブ

* 日本赤十字広島看護大学

ドウ球菌群であり，病原性は低いものの免疫低下の患者にとっては感染症の原因菌になる。そのため，患者の手指や周囲環境を衛生的に保つことができれば，医療従事者への交差感染を低減できることが示唆された。

おわりに

開催国である韓国では，MERS（中東呼吸症候群）を引き起こす MERS コロナウイルスによる感染が深刻化していた時期の入国であったため，感染予防対策を完備して学会に参加した。空港での出入国時に渡航歴や自覚症状を申し出ることを注意喚起して

いるポスターは見受けられたが，詳細な審査はなかった。また，MERS は密室環境で感染しやすいとはいえ，ソウル市内でマスク着用者はゼロに近く，国民の意識に疑問を抱いた。日本は世界屈指の衛生環境のよい国であることを再認識した。

なお，韓国政府は同年12月に MERS の終息宣言を発表した。

謝 辞

今回の国際学会に出席する機会を与えてくださいました本学の関係者の皆様に感謝いたします。